

## 20年後も「いのち輝くマグネット神奈川」に向けて

神奈川県知事 黒岩 祐治



私が知事に就任してから、まもなく2年になろうとしています。

東日本大震災からの復興が進められる中で、昨年末には新政権が誕生し、日本全体に新しい期待感が膨らみ始めているようです。こうした明るい兆しを追い風にして、県民の皆さんと力を合わせて県政を推進していきたいと思っています。

昨年は、本県財政の危機的な状況を踏まえ、今後の政策課題に着実に対応できる行財政基盤を確立することを目的として、「緊急財政対策」に着手しました。もちろん、予算や人員を削る見直しだけでは将来の展望は開けません。そうした見直しと同時に、経済のエンジンを力強く回していくことも大切です。

私は年頭に当たり、「3歩先行く神奈川！」を掲げた、「神奈川全開！宣言2013」を発表しました。この宣言は、私たちの神奈川が20年後も「いのち輝くマグネット神奈川」であり続けるために、健康寿命日本一を目指す「いのち全開宣言」、県民生活のICT化とスリムな県庁づくりを目指す「電子化全開宣言」、神奈川のポテンシャルを生かした新たな活力創造を目指す「潜在力全開宣言」の三つで構成されています。本県は、これまでも時代に先駆けて、様々な先進的な取り組みを行ってきましたが、神奈川の経済のエンジンを回していくために、さらに知恵と工夫を総動員して、実現に向けて全力で取り組んでいきたいと考えています。そうすることが、本県が直面している財政危機を乗り越える大きな力につながっていくものと確信します。

さて、本号は、政策研究・大学連携センター～シンクタンク神奈川～が平成24年度に取り組んだ研究成果を取りまとめた冊子です。研究のテーマは、長期的視野に立った行財政運営に関わる三つのテーマに、コミュニティ、人口減少社会、レジリエンス（災害復興）に関わるテーマを加えた六つです。長期的視野に立った行財政運営の三つのテーマは、もちろん財政危機に密接に関係するものであり、コミュニティ、人口減少社会、レジリエンスの三つのテーマは、これからの地域社会をどう見通し、何を備え、どのように政策化していくかを考えるために、欠くことのできない重要なものです。

私たちが、明るい未来に向かって邁進していくためには、県政を取り巻く課題に積極的に対応することはもちろん、国、市町村と密接に連携し、企業、大学、NPOなど県民の皆さんの力を結集させながら、課題を一つ一つ解決していく必要があります。

今年度のシンクタンク神奈川の研究成果が、本県はもとより、様々な主体の政策形成に役立つことを願っています。